

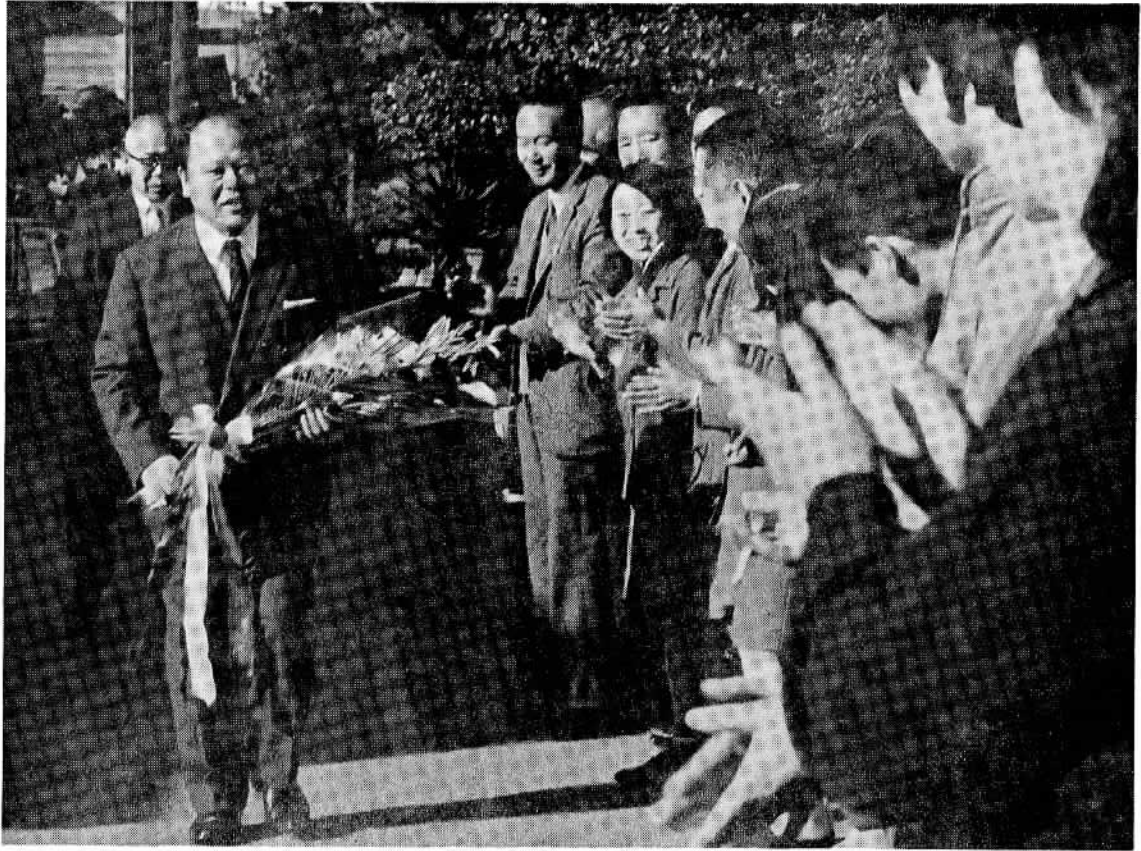
市報



いしおか

題字の変更

市報「いしおか」は、今月号で二百一号になり、これまでの題字は原版がいたんだりしていますので新鮮味を出すために、今月号から題字を変更しました。



1 / 1972
—201号—

鬼沢市政スタート！

鬼沢新市長は、12月24日午時9時30分高木前市長の墓参をすませたあと、初登庁し、市民会館の第4会議室で全職員を前に「市民の皆さんには親切第一に、そして仕事のスピードアップをはかるとともに、全体の奉仕者としての規律をまもり、市民に信頼されるような勤務をしてほしい」、そして「私の考えが市民の皆さんに理解していただけるよう手となり足となり、また頭となって働いてもらいたい」とあいさつし、鬼沢市政のスタートを切りました。

（職員の手拍子に迎えられ、初登庁した鬼沢市長）

市の人口（1月1日現在）

世帯数	10,360世帯	10世帯増
人口	男 19,948人	31人増
	女 21,063人	27人増
	計 41,011人	58人増

新しい年を迎えて

豊かで住みよい

石岡をめざし

市長 鬼 沢 賢 造



明けましておめでとうございます。皆様、お元気でよい年をお迎えになったことと存じます。

先般、皆様のご信任をいただき、私が今後四年間の石岡市政を担当することになりましたが、大変むずかしい時期に直面している今日、私は市民の皆様と心を合わせ、力を寄せ合って、誠心誠意努力をして参る覚悟でありますので、皆様のご協力を心からお願い申しあげさせていただきます。私は今後の市政の方向として、豊かで伸びゆく石岡、住みよい環境の石岡、立派な人づくりの石岡をめざして、苦しい財政のなかでも、創意と工夫をこらし、議会そして市民の皆様のご知恵を寄せ合い、少い経費で最も大きな効果をあげるための努力を重ねながら

ら、一つ一つ問題解決をはかってゆきたいと存じます。とくに本年は、石岡にとって多年の懸案である柏原工業団地の問題に、メドをつけなければならぬ年であり、これに全力をあげなければなりません。その他、常磐自動車高速道路も着工の年となりますので

議会の基本

姿勢の前進を

議長 前 島 雅 光



謹んで新年のお祝詞を申し上げます。

昭和四十七年の輝かしい新年を迎えるに当り、四万市民の皆様と共に心からお喜びを申し上げます。

石岡がこれをどのように受入れるか、どうすれば石岡に有利になるかという問題もすっかりとした方向づけをしなればなりません。経済不況という暗い情勢のなかでありますが、石岡が前進できる道を求め、新しい道を拓いていくための努力を続けたいと考えております。



当市八万二千人の人口想定に基き、各般にわたっての事業計画実施の初年度であり、ある意味では石岡市躍進のための第一年目であったわけであります。

なお、異例の事態といたしましては、十一月三日、高木市長のご逝去、市民の悲しみにつつまれた市葬の執行、そして、十二月にはいって市長選挙という誠に変動の年でありました。

加えて一方、中共の国連加盟、沖縄問題、国際通貨体制決着、円の切上げ決定、ドルショック等、政治、経済の各分野に世紀の大転換の年であり、まさに激動の七十一年であったわけであります。

石岡市も七十年代の三年目である四十七年に当り、将来の展望の上に立ち、山積する諸々の重要案件の早期解決と沈滞する市政の前進のため、新たな意欲に燃えて、議会といたしまして積極的にがんばる決意であります。

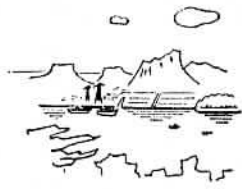
とくに、本年度の地方自治体の財政運営は極めて、容易ならざるものがあります。

自治省の見解によりまして、地方税において、昨年は七千億円に對し、本年は三千億円また、交付税の伸び率も昨年三千五百億円に對し、一千億円というように収入の落ち込

みをきたし、地方自治体の一般財源の不足は実に一兆円といわれております。

社会の進展とともに、ますます公共事業の増大する今日これらの地方負担の確保、福祉行政、学校、下水、土地開発基金の拡充の問題等を遂行するには、極めて多難であると思わいたします。

私は、とくにこの際、自治体といたしましても、自己努力、対策を真剣に考え、経費の節減、定員問題などと取組み、出来得る限り投資的な予算の確保に最大の工夫をする必要を痛感いたすのであります。また、議会としては、議会の立場を堅持し、市民の意志決定機関としての役割を立派に果たしたいと念じております。市民の皆様のご今後共、限りなくご支援、ご指導をよろしくお願い申しあげ、新年に当り市議会を代表しご挨拶いたします。



第四回定例市議会

決算認定など

十六議案を審議

四十六年第四回定例市議会は、十二月四日から七日までの四日間にあつて開かれ、四十五年の決算認定など十六議案を慎重に審議し、全議案を原案どおり可決しました。主な議案の内容は次のとおりです。

四十五年度の

決算を認定

一般会計は、歳入十三億五千五百九十九万円、歳出十三億二千二百二十万三千円で、三千三十八万七千円を翌年度へ繰越しました。

また、特別会計では、有線放送が歳入六百二十二万九千円、

歳出五百九十七万九千円で、

十五万円を翌年度へ、授産所が歳入千三百三十一万円、歳

出千三百一十九万九千円で、一

万二千円を翌年度へ、国民健康

保険が歳入二億三千四百八十

六万三千円、歳出二億一千五

百三十八万七千円で、千九百

四十七万六千円を翌年度へ、

農業共済が歳入二千三百八十

八万九千円、歳出千

九十九万九千円で、

四百六十九万九千円を翌

年度へそれぞれ繰越

しました。

四十六年度

補正予算

こんど追加された

一般会計の補正予算

は、千二百四十四万

九千円で、四十六年

度の歳入歳出予算総

額は十四億四千九百

十五万一千円となり

ました。

この補正予算の内容をみて

みますと、歳入は、繰越金八

百三十三万一千円、国庫支出

金二百九十五万五千円、県支

出金百二十二万七千円、分担金

及び負担金三万六千円となっ

ています。

また、歳出では、民生費が

身体障害者更正援護費などの

扶助費三十七万八千円、児童

手当三百万円など四百三十九

万一千円、土木費が市道舗装

や、その補修用材料費など二

百四十八万六千円、教育費が

常陸国分尼寺発掘調査費四百

万円、パドミントン審判講習

及び選手強化委託料十七万五

千円など百八十八万九千円、

衛生費がごみ捨場用地購入費

など二十八万五千円、そのほ

か総務費二百一十一万七千円、

商工

請負契約の締結

四十六年十二月三日に指名

競争入札を行なった、石岡都

市計画街路事業の愛宕下根当

線道路新設改良舗装工事を市

内若松町の木村工務店(代表

者 木村善太郎氏)が六千百

万円で落札したもので、工期

は契約の日から四十七年三月

二十五日までとなっています

衛生処理場

湖北環境衛生組合の新しい

し尿処理施設が完成したこと

により、これまで市で管理し

ていた処理施設を同組合へ移

管したため、この条例を四十

七年一月一日付で廃止したも

のです。

特別職の

給与等を引上げ

常勤特別職の給与や、非常

勤特別職の給与が選任された。

湖北環境衛生組合第四回定例

議会にて、議長に上野善夫氏(

鹿の子)が選任されました。

十二月一日に行なわれた、

湖北環境衛生組合第四回定例

議会にて、議長に上野善夫氏(

鹿の子)が選任されました。

市長選挙は、十二月十九日

に市内二十二カ所の投票所で

行なわれました。

勤特別職の報酬を次のとおり改正しました。カッコ内は改正前

常勤特別職の給与

市長 二十一万円(十九万

五千元)

助役 十七万五千円(十六

万円)

収入役 十六万円(十四万

五千元)

教育長 十五万五千円(十

四万円)

非常勤特別職の報酬

市議会議員 七万五千円(

五万五千元)

// 副議長 七万円(五万二

千円)

// 議員 六万五千円(五万

円)

湖北環境衛生組合

議会議長に上野氏

十二月一日に行なわれた、

湖北環境衛生組合第四回定例

議会にて、議長に上野善夫氏(

鹿の子)が選任されました。

市長選挙は、十二月十九日

に市内二十二カ所の投票所で

行なわれました。

市全体の投票率は、五二、

八七%で、投票率の最も高か

ったのは第十六投票所(小井

戸)で七四、六%、低かった

のは第十一投票所(ソントン

六十六人となり、投票率は男

県議会議員選挙

1月23日

参議院議員補欠選挙

2月6日



投票用紙は、候補者一人の氏名は「ハジメハジメ」

五四、四六%、女五一、四四%でした。

なお、開票は、午後七時十分から市民会館第四会議室で行なわれ結果は次のとおりでした。

鬼沢賢造(仮) 会社役員 九一八三票

原田亨一(仮) はり灸師 四八七八票

吉田 浩(仮) 地方新聞経営 一八一一票

第二十九回茨城国体に備え

バドミントンの

審判養成

市では、四十九年に開かれる第二十九回茨城国体に備える十月に「バドミントン選手強化及び審判員養成対策本部」を発足させ、その第一段階として、公認審判員の養成をすることにいたしました。

この公認審判員は、一級から三級まであり、こんどの団体では、二級審判員五十人、三級審判員百三十人程度を必要とします。

しかし、現在、県内での資格を持っている人が二級では五人、三級では百人ほどいるだけで、その不足している審判員をどうしても団体までには養成しなければならぬわけではあります。

三級審判員に
五十三人合格
そこで、市では、この審判

養成のため、市内各事業所、市体育協会、市体育指導委員会、市内小中学校の協力で、資格取得対象者をすいせんし、もらい、再三にわたる講習会を開催した結果、このほど五十三人が三級審判員に合格しました。

このように、市内各事業所の協力により、石岡市のバドミントンは、四十八年のリハールサル、四十九年の国体に向

駅前通りにもアーケード



市内の各商店会では、雨の日にかさを開いたり、つぼめたりしないで買物ができるようにと、アーケードづくりを進めています。

昨年の暮れには、中町通り商店街が完成、現在は駅前通りの工事が行なわれています。

この駅前通りのアーケードは、両側につくられ延長およそ五百四十一メートルで、駅から向かって左側は北向観音通りまで、右側は旧国道との交差点までとなっており、一月いっぱいには完成する予定です。

かつて、大きな盛りあがりを見せています。

なお、これからの主な行事予定としては次のとおりです
四十七年一月
市内バドミントン講習会

二月、三月
市審判部研修会
市民バドミントン競技大会
会
茨城県実業団大会
三級公認審判員審査会

印鑑登録や証明には 必ず本人が……

ければ絶対に認めないことにしています。

そして、印鑑の登録や改印のときには、本人申請のときでも、石岡市に印鑑登録をしている人の連署押印による保証が必要です。

また、代理人のときには、委任状のほかに、医者の診断書（歩行困難であることを明記したもの）が必要です。

登録印は印影のは
っきりしたものを

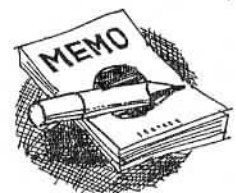
皆さんがお金を借りたり、土地などを売買したりするときには、印鑑証明が必要でこの印鑑証明は、皆さんが市役所へ印鑑登録のしてあることを証明する大切なものです。

ですから、登録した印鑑をなくしたり、市役所で本人の承諾なしに、ほかの人に印鑑証明をだしたりすると、大へんなことになります。

このため、市役所では、代理人による印鑑の登録や改印証明をする場合、委任状がな

農業基本調査にご協力を！

この調査は、県内農業の実態を明らかにし、農業行政施策の基礎資料とするものです。この調査の対象となるのは(一)経営耕地面積10アール以上で農業を行なう世帯、(二)経営耕地面積10アール未満であっても、調査期日前1年間における農業生産物の総販売額が5万円以上である世帯、(三)学校、試験場、協同組合、協業事業体及び会社などで、(四)のいずれにもあてはまらない事業所です。なお、調査期日は2月1日で、調査員がお伺いいたしますのでよろしくお願いたします。





年生れのことしの抱負

ことしのえとは子年、そこでことしは、この子年生れの人たちに、年のはじめにあたっての抱負を書いてもらいました。(順不同)



石小5年 宮地政弘(11)

ててきました。でも、良い心と悪い心があります。僕達が読書をしたり、化学実験や工作をする時、良い心でない、うまく理解できなかったり、失敗したりします友達と遊ぶ時も同じです。僕が柱に頭をぶっつけたとき、おとうさんが「痛くない痛くない」と自分の心にいいなさいと教えてくれました。その通り何回かくり返しているとなんか痛くないような気がしました。

新年おめでとうございます僕がこの地球上に生れて、二度目の子年がめぐってききました。子年とか丑年とかを「えと」といいますが、僕は百科事典でそのことを調べてみました項目は千十二支になっていて、大人用なので難しいことがのっています。

十千十二支というのは、十種類のものと、十二種類の枝のことをいいます。世紀前中国の殷という古い時代から、これを組み合わせて、日をかぞえるのに使っていたと書いてありました。

十二支に動物を当てはめたのは、ずっとあとになるのですが、子はねずみなので、子年生れの人には、ものを貯えるのが上手でお金がたまるとおかあさんが言っていましたねずみの習性から良いところを取って、昔よりそう言い伝えていこう。

人間は動物と違って強い心を持っていません。その心を使って原始時代から生活に役だ



碓杏子(35)

東京から高浜に移り住んでから、これで七度目の春を迎える。

当時生後四カ月であった下の娘が早くも一年生となり、その歳の数は在郷の歴史をしのぶにふさわしい。霜の早朝兄と連れだつて白い息をはきながら登校するその後姿を見送るとき、やっと私共にもふ

じみ思う。主人も私も、東京の戦禍のがれさまよつたわが難民みたいな者たちであったから失ったふるさとを取り戻した喜びはひとしおである。再び主人が青年期を過ぎたこの郷に戻った時、迎えて下さった人々のまなざしは明るく優しく

かった。以来それらの方々と又新たに親しんで下さった方々の温情におぶさつて、わがままな消費の日々を過ごさせて

いただいたわけである。今年の子年、私には三巡り目の干支に当る。人生の山頂にあっては、何をか曰んやである。かき抱く願い、はせる

望みは茫洋と果知れないが、それもこれも全ては初志を貫く執念に、塗りこめてゆきたいと思う。

時流は混沌としてす速い。高度成長や都市化の波に乗じて氾濫する廢棄物、それら朽ちようもない物質には、環る天も地もありはしない。無限地獄を漂うのみである。事実、悪臭を放つ濁水を、日々八方から注ぎ込まれては母なる霞ヶ浦が、死の湖と化するの、時間を待たないであらう。

魚の嘆きを我が嘆きとし、水藻の苦しみを我が苦しみとしても、あゝ悲しいかな芸術は現実を目の前にしてまさに無力であり無策なのだ。しかし失われたものは目に視えている風物や風俗ばかりではない。根元に当る人間性そのものであり、心のよりどころなのだ。信じる。信じる。信じる。信じる。信じる。信じる。

の寄り所が無いがゆえの不安を、祈りの言葉として、私は詩作を続けてきたように思う主人は、主人で、生きることの不節操を嘆きつゝ、その不条理の穴はこの中で絵を描き

続けているように観ている。いずれ私共ときは、実理の世界とは異なる無用の用人々々でもあろうかと。そこで本年中にやりたい事を私事に引き寄せるならば、この辺

鹿島における農業と工業を両立させようとする農工商全の考えは、農業が工業化の波にのまれる形で押し進められる結果となった。将来を農業にたくそうとしている私にとってこの現象は、この先農業が圧迫されるであろう一つの身近な具体的なあらわれとして、大きく不安をかきたてるものとなった。



石川飯田忠夫(23)

で第二詩集を是が非でも出版すること。主人には放浪の旅をさせること。そして子供達にはその不在中に、父の尊厳を知らしめる教育をほどこしたいと思う。

最近では若い人で農業に従事する人はますます少なくなり、農家の大黒柱であるオヤジさんまでが、不安定な季節労働者として、働きのでなければならなくなってきた。これは農作物の価格が不安定なため、確実な現金取入を保障する裏付けとはならず、諸物価の値上がりと生活水準の向上に迫りついていけないためである。

このように私たち農民にとって、農業がやりにくくなり生活の不安をかきたてられる最も大きな要因は、一連の総合農政の生み出したものと言えるだろう。

なんとと言っても、米の生産調整、生産者米価のすえ置き買入れ制限をはじめ、さまざまな農業を軽視した政策の中で特に、これから農業に夢をたくそうとしている我々の若い仲間にとって、目の前に立ちはだかる大きな厚い壁となっている。

今年も農協を通じて減反割り当てをしてくるであろうが我々農民にとっては直接に経済的な圧迫となり、ただ、国の政策だからと言って安易に協力してしまうわけにはいかないのである。私のまわりでも減反にこころよく協力している農家は少ない。

米の過剩傾向にある当面の打開策として減反に協力したとしても、政府の言う選択的拡大への道が地域の農業に見合った形で提示されていないような状態では、そう簡単に他の作物に転換したとしても経済的な裏付けは皆無といわざるをえない。単に補償金を支払うだけの場当たり的な政策にすぎないのである。

私の家では米作や畑作の不振から養豚に比重をおこうと

しているが、たびかさなる飼料の値上げや豚肉自由化問題などを前にして、規模の拡大をあやぶんでいる。

しかしながら、さまざまな悩みや不安を少しでもとり除くには、我々若い仲間が現在農業のおかれていた立場を適確に捕え、連帯の力をもって現状打破の道を模索していかなければならない。

現に私たちのまわりにも農協青年部や青年会があり、新しい栽培技術を視察し導入して、年々立派な成果をあげているグループや乱れ飛ぶエログロ退廃文化、怒濤のように押し寄せるマスコミ攻勢の中で、本当のものを見つめて新しい農民意識の開拓に努力を惜しまない仲間が、多くいることは私にとって心強い。

一九七二年、一人の青年として、又一人の石岡市民として精一杯頑張って飛躍する年にしたい。

皆さん、今年も大いに頑張りましたよ。



守木町 小松 政子 (47)

安定が何よりも必要なことです。ベースアップと物価の値あがりのアンバランスせいかは望みませんが政治と行政の力で安定した生活が出来る世の中になってほしいと思います。

新年おめでとうございます皆様方もよいお年をお迎えになられた事と存じます。新しい年を迎えて私の願いを申し上げたいと思います。

一つには戦争よさようならということ。地球は青かった」と言った宇宙飛行士の言葉はまだ記憶に新しいところ。宇宙から眺めた地球は平和そのものだったのでしよう。しかし現実はどうでしょう。ベトナムでパキスタンで毎日のように住居をなくし食物もなく逃げ惑う善良な人々のいることを。この青い地球に住む三十五億余の人達の力で無益な戦争を一日も早く解決して世界全人類の平和の訪れを心から願いたします。



石川 小坂部 延四郎 (59)

忙しい日々を送る中でいいの場を求めてやって来た時の詩である。その頃は終戦直後のことで物資がとほしく、炭灰を少ない炭火の上にかけてあったまりながら夜半まで語り合った。

三つには自然を守ろうという事です。ほとんど毎日のように新聞テレビをにぎわす公害の問題、次第に失われて行く緑と青い空、筑波を望むこの美しい石岡は勿論、日本全土を自然の美しさのまゝ保ちたいと思います。

四つには青少年よ健やかにという事です。「伸びろ 伸びよ 健やかに」と声をかけた位若い世代は国の宝です。でもこの頃は、いろいろな出来事が多過ぎます。権利の主張も結構ですが義務と今日までの日本を築いた先輩への感謝だけは忘れないでほしいと思います。今年こそ若い方々が自覚と責任をもって行動してほしいのです。以上ささやかな願いを述べてみました。

二つには暮らしの問題です私達庶民特に台所をあつかう主婦として痛切に感ずることはマスコミでも言われていることです。主婦として母として家を円満に平和に維持して行くためにはやはり経済的な生活の

昼食後のひととき、新聞を見るのが私の日課である。近頃、自然愛護や各種公害、学生運動などの記事が新聞をにぎわしている。これらのことが大きな社会問題になっていくことは今更、平凡な私が語るまでもないことである。しかし霞ヶ浦の恵まれた環境の中で育った私にとっておのずから関心を持ち、公害によって自然が破壊されていくことは、はげしいいきどおりを感じる。

二十数年前のことである、友人からの手紙に次の詩が添えてあった。

一道長江東寧流 蒼茫湖色鳴如浮 二峯並立分男女 馬耳笑顏粧態秋

この詩は、私達の住む高浜入江から見た筑波山の風景であり、恋瀬川の水の流れも清らかに吸って飲めるような清水であった。という意味のものである。彼が、常に忍耐力に富み、自分の職場を忠実に守り通し立派な技能者となり、

これは私達女性も家庭内から一步を踏み出して視野を広め国の政治や市政にも関心を持ち激動するこの時代に順応出来るよう頑張りたいと思います。

皆様方のご健康とご多幸をお祈り申しあげます。

自然を破壊させるような公害の源である廃棄物を捨てる前にもう一度反省して見ようではありませんか。恋瀬川右岸地域も県営五カ年計画事業で圃場整備されるが、農業経営も合理的に改善され高度化し機械の利用による余剰労働力が高産の導入が計画されるのは結構であるが、その汚水による公害を未然に防ぐよう配慮しなくてはならない。

歌人知らぬ歌に、筑波嶺の粧鏡は霞ヶ浦こぼれ白粉真帆

片帆かな。この景勝の地霞ヶ浦を走馬灯の如く過ぎ去った想出、現在から未来へと公書が無いつまでも清らかな水を潤し、近郷は勿論、遠くは京浜地方からいこいの場として、釣の名所として諸人より親しまれるような郷土に一九七二年新春を迎えるに当りなお一層、市民運動の一環としても努力していきたいと思



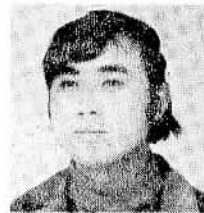
三村小多喜子 (11)

私の母は、朝出かける前にいつでも、「たきちゃん、今日もみんなに負けないようにしっかりがんばってくるんですよ」と、まくらもとで、いっていきます。そんな時わたしは、「このおおかあさんのために、がんばらなくては、いけないんだ。大人になつたら大物になって、母にらしくをさせてあげるのだ」と、いつも心にちかいます。

「もっと生きたい、もっと生きたい。」と……
せみは、一週間しか生きられない。だから一日中あんなに、なくのだらうか。
「もっと生きたい、もっと生きたい。」と……
せみにくらべたら、人間は長いなあ。けれど時間の立つのは速い。一日は、あつというまに過ぎてしまう。こうし

苦ろうしている母に、もうしわけない。」そう思いながらいつもじっとたえぬいていこうと思ひます。
私の夢は、女医になることです。お金がなくて、ち療してもらえず、苦しみながら命をなくした人は、数多くいることだと思ひます。そんな人たを回り歩いて、命をたすけてあげるのだ。

ては、いられない。一日一日を、有意義にうまくつかわなければならぬ。よおし、中学生になるまでには、短所をかならずなおそうと思う。階段を一步ずつ進み、人間は、成長してゆく。わたしも、その一人の人間だ。もどつてはいけない。まっすぐに未来まで、つっぱしるのだ。



井関卓 (23)

昔、日本の国は、「瑞穂の国」と言われた程、日本と農業とは、切り放す事の出来な

わが国の経済は、貿易の自由化などによって、めざましい成長を遂げて来ている。そのために人口が、第一次産業よりは、第二次、第三次へと移動して行くのは、むしろ当然の事かもしれない。だが、私達は、これから先、農業を生活の手段として選んだ以上、他産業に、追いつき、追い越して行かなくては、より良い生活は得られないだらう、そのためには、技術面での向上は、もちろんであるが、それ

と同時に、「農政」と言うものに、目を向けなくてはならない。
現在、わが国の農政は、あまりにもぐらつきすぎている。一番良い例(むしろ悪いと言った方が適当かもしれない)が、稲作である。四・五年前までは、米が足りないといつて、畑地を陸田にしてまで増産を計り、今度は多すぎるので減反してくれ、休耕、転作した者には奨励金を与えるなどでは、あまりにも農業者をばかにしすぎているではないか、このような、「場当たり政策」では、何を信じて、経営をしていったら良いのかわからない。

又、農業資金にしても、多くの制度があるが、近代化資金のように、どのような経営へも、導入出来る低利子の資金の枠を広げて、安定した農業経営が出来るようにしてもらいたい。
そして、私達農業後継者は努めて、明るく住みよい農村づくりをめざして、大いに発奮しようではありませんか。



土橋町京子 (23)

新年は、いつも真白な画用紙をわたされた気がします。

今年はその画用紙が、去年よりも少し大きくなっているようです。毎年毎年、真白な画用紙が大きくなって、そしてその画用紙いっぱい、自分の絵が描けたら、どんなに素晴らしいでしょう。そんなことを思いながら、筆を走らせています。
去年私は学生生活に終りをつけて、保育園に勤めました。本当に、ずっと子供との生活にとけこんでいたと、自分では思っています。でも、それまでは、子供は私にとって虫と同じように、とてもいや

な存在でした。ところが、どういうわけか、いや理由はありません。それは、私が子供たちといっしょに遊んだ瞬間からでした。子供というものがこんなにも可愛らしく、こんなにも愛すべきものだということ、私は初めて知りました。
「この子供たちのために、何かをしてあげたい。」それは、私自身をも幸福にしてくれるものであると、信じました。

(7)

人形劇、童話、歌、ゲーム私は、大学時代そのようなクラブに入りました。とにかくいろいろ学びたいと思ひました。そこには、子供の喜びそのうなものが、沢山ありました。でも、私の未熟なせいで、そこでの人間関係から挫折感にとりまかれたこともありました。
でも、今は、生活している子供たちの中に入って見て本当に自分の道を見つけた気がします。
今年こそは、保育の資格をとろうと思っています。そして、自分の画用紙に描いたバラの花を、子供たちの小さな白い画用紙に、描いてあげられる保育に、はやくなりたいと思ひます。

